

|                |                                                                                                                                                                                                                                                                                  |       |       |
|----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-------|
| クラス番号          | 608                                                                                                                                                                                                                                                                              | 担当教員名 | 篠田 道子 |
| テーマ            | 保健・医療・福祉サービスにおけるチームケア                                                                                                                                                                                                                                                            |       |       |
| 著書・論文<br>研究課題等 | <p>【著書】「多職種連携を高めるチームマネジメントの知識とスキル」(医学書院、2011)、「チームの連携力を高めるカンファレンスの進め方」(共編著、日本看護協会出版会、2010)、「高齢者の終末期ケアの質を高める4条件とケアマネジメント・ツール」(共編著、中央法規、2010)、「質の高いケアマネジメント」(中央法規、2008)など</p> <p>【論文】フランス終末期ケアの現状とわが国への示唆 - 2012 - 2013 年に発表された調査結果の分析を中心に - 健保連海外医療保障、NO. 100, P8-15, 2013 など</p> |       |       |

## ゼミナール概要

キーワード：チームケア、地域包括ケアシステム、連携、退院支援、終末期ケア、認知症ケア、福祉機器開発

### 目的、内容、方法等：

- 1) 本ゼミは、地域包括ケアシステム、連携、退院支援、終末期ケア、認知症ケア、福祉機器開発など保健医療福祉のチームケアに関するテーマを幅広く取り扱っています。病院、福祉施設、行政、企業でのフィールド調査にも力を入れています。
- 2) WHO（世界保健機関）は、「専門職とは連携ができる、あるいはチームケアができる人」を提唱しています。自分の専門性を磨くことも大切ですが、一人で出来ることには限界があります。30を超える専門職やボランティアなどの知恵と力を借りながら、チームで利用者を支えられるよう「連携力」を高めます。
- 3) チームケアは本を読んでも出来るものではありません。連携力のスキルを磨いたり、優れたチームケアを実践している現場や実務家に学ぶなど、教室以外での学びを積極的に行います。ゼミ生は、一つのモデルにこだわることなく、様々なモデルがあることを学んでください。
- 4) 地域包括ケアシステムの先駆事例（行政含む）、退院支援（MSWの役割と社会資源開発機能）、終末期ケア（ホスピス・在宅緩和ケア）、認知症ケア（認知症予防から終末期まで）、福祉企業（福祉機器や新たな介護サービスの開発事業者）などテーマを選択して、チームケアを学びます。
- 5) ゼミ生に獲得して欲しい能力は、多面的に情報収集し、物事を分析し、言語化し、他者の意見や環境の変化に対応しながらしなやかに生き抜く「弾力性」、そして意思を貫き、あきらめない「精神的なタフさ」です。

### ゼミの進め方：

- 1) 3年生の前半は、地域包括ケアシステムやチームケアなどに関する文献や資料を読み、基礎知識の習得を目指します。毎回報告者を決めて、レジュメの書き方、プレゼン方法、質問の仕方を学びます。また、実践現場（病院、福祉施設、行政、福祉企業等）に赴き、見学やヒアリングなどフィールド調査を行います。
- 2) 3年生の後半は、フィールド調査の結果について意見交換を行い、保健医療福祉サービスの現状を多面的に検討します。サブゼミごとにテーマを設定して、まとめやプレゼンテーションを行います。
- 3) 3年生の終わりには卒論のテーマを決め、春休みから少しずつ書き溜めていきます。4年生の夏休み終了後の提出を目指します。
- 4) 4年生の10月からは国家試験の勉強に専念し、全員合格を目指します。
- 5) 春合宿や国家試験集中合宿等を予定しています。コンパや食事会、卒業旅行など仲間作りをします。
- 6) 過去のゼミ活動では、福祉企業とゼミ生がチームを組み、「座位保持クッション」を開発したり、ユニットケアやグループホームのビデオを作成したり、学内のデジタルコンテストで入賞するなどゼミ生のチーム活動が評価されています。

### 担当教員からのメッセージ

現在専演Ⅰ・Ⅱを担当していないため、ゼミ見学はありません。相談はいつでもメールにて受け付けています（[mshino@n-fukushi.ac.jp](mailto:mshino@n-fukushi.ac.jp)）。福祉は『実践の学問』です。そのため、フィールド調査やゲスト講師を交えたディスカッションに力を入れています。私自身の興味関心の範囲がとても広いので、あまり専門性にこだわっていません。主体的に参加し、遅刻・欠席をしない人、前向きな人を希望します。

本ゼミは、先輩や現場で出会った人々のつながりを大切にしています。コンパや勉強会も活発に行いたいと思います。2年間のゼミの集大成としての卒論は、ゼミ活動をコツコツ積み重ねていけば必ず書けます。「継続は力なり」で一緒に頑張りましょう！